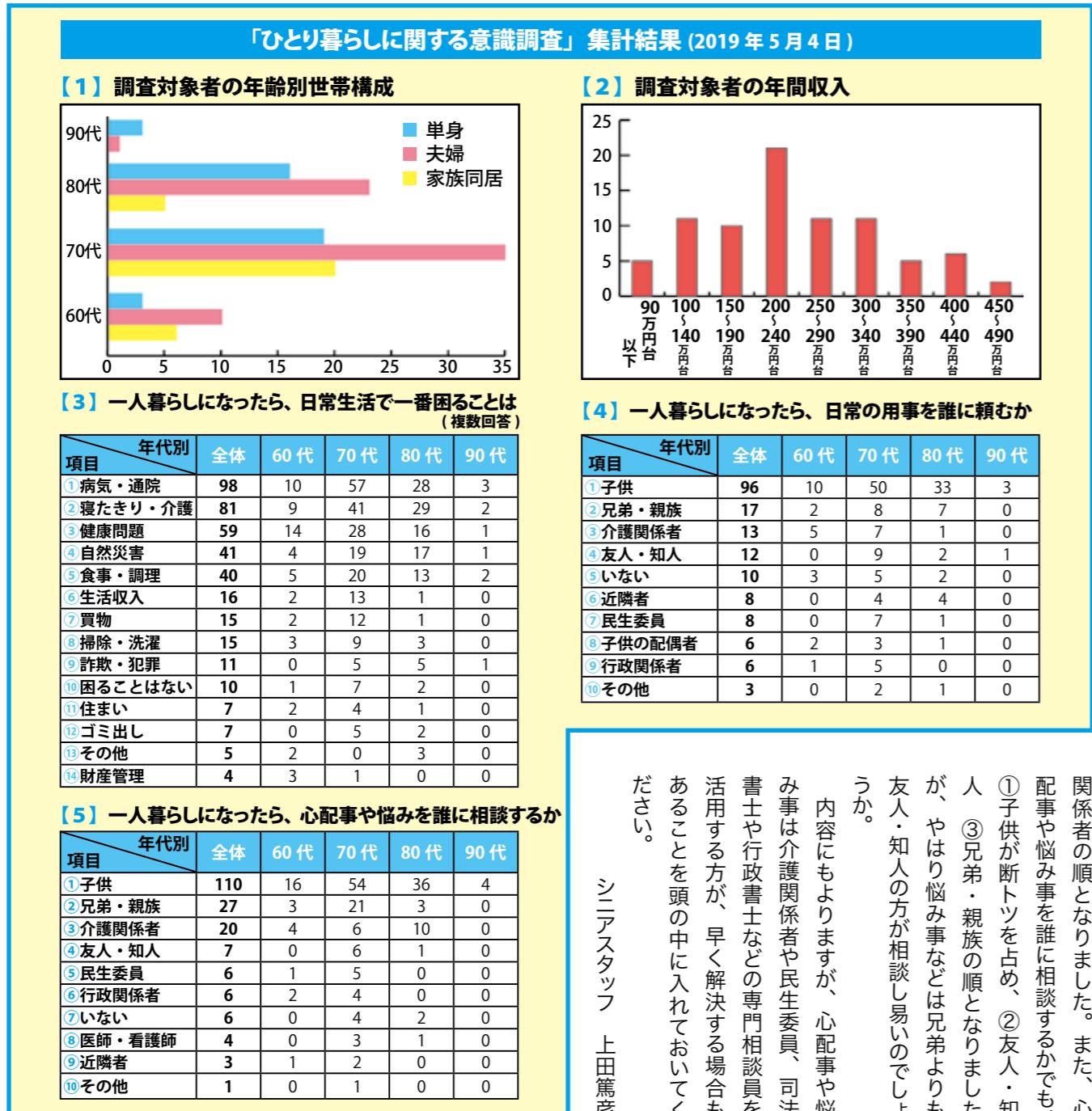


グラフでみる
「ひとり暮らしに関する意識調査」

自覚してますか？ 誰でもいつかは「ひとりになる」

人生100年時代と言われていますが、夫婦ふたりが共に生きる保証はありません。誰でもいつかは「おひとり様」になります。そこで、北九州市内に住む高齢者を対象に「ひとり暮らしに関する意識調査」を実施しました。



本誌編集部では、北九州市老人クラブ連合会などの協力を得て標記調査を実施しました。調査結果は二回に分けて報告しますが、今回は調査対象者150名の年齢・家族構成などの属性および日常生活での困り事や悩み事相談等々についての集計結果を分析してみました。

家族構成は夫婦世帯が5割近くを、次にひとり世帯が3割近くを占め、家族同居世帯は2割でした。また年齢別では70歳代が5割強、80歳代が3割、60歳代が2割弱となりました。

年間収入は回答者の3割近くが200万～240万円で、これを境に190万円台以下が2割弱、250万～390万円台以上が3割台を占めました。

（家計収支編）によると、2017年の高齢者夫婦世帯の月平均実収入は20万9千98円となっていますので、かけ離れた調査結果とはいえないようです。

7割の方が夫婦＆家族同居世帯であることを見頭に、「ひとり暮らしになつたら、日常生活で一番困ること」はと聞いたところ、別表のとおりとなりました。

①から③までの上位を占めたのは、病気・介護・健康と自身の身体に関する健康問題であることが明らかとなりました。

元気な時はひとりでも動けますが、病気や怪我・介護などで動けなくなつた時は①子供に頼むが断トツで1位を占め、次に②兄弟・親族③介護



関係者の順となりました。また、心配事や悩み事を誰に相談するかでも、

①子供が断トツを占め、②友人・知人③兄弟・親族の順となりました。が、やはり悩み事などは兄弟よりも友人・知人の方が相談しやすいのでしょうか。

内容にもよりますが、心配事や悩み事は介護関係者や民生委員、司法書士や行政書士などの専門相談員を活用する方が、早く解決する場合もあることを頭の中に入れておいてください。

シニアスタッフ 上田篤彦